

第2期知床半島エゾシカ保護管理計画・計画期間中の中間総括

(更新版)

*第2期5年間：平成24(2012)年4月～平成29(2017)年3月(平成28年6月現在で4年強経過)

○エゾシカA地区：

高山帯進出への懸念は依然あるが、希少な高山植物の被食量や高標高帯における越冬数には大きな変化なし。一方で捕獲を実施していないルシャ地区は、現在の知床半島で最も高密度の越冬地となっている。

○特定管理地区(知床岬地区)：

第1期に引き続き、5カ年に渡り個体数調整を実施した。先端部台地上での越冬期カウント数は捕獲実施前と比較して2割以下に減少。一方で積雪が多い年には先端部(仕切り柵内)への移入が確認されている。

○エゾシカB地区：

幌別ー岩尾別地区：

2012年1月から実施の個体数調整の効果等もあり、2013年以降、航空カウントでは捕獲実施前と比較して大幅に減少。道路カウント(ライトセンサス)では、特に岩尾別地区で100メス比が上昇に転じている。

ルサー相泊地区：

2010年12月から実施の個体数調整の効果等もあり、2013～2015年、航空カウントでは捕獲実施前と比較して、特に同地区南部で大幅に減少。しかし2016年には再び増加。道路カウントでは、岩尾別地区と同様に100メス比が上昇傾向。

○隣接地域：

斜里側：

中断期間を設けた狩猟の継続等で道路カウントでは鳥獣保護区外で減少傾向。保護区内においては増加傾向にあったが、2013年12月以降実施の林野庁事業による管理捕獲等の効果か、2013年度以降は減少傾向に転じた。

羅臼側：

狩猟と管理捕獲により、一定の捕獲圧は維持されている。全体的に横ばいまたは減少傾向だが、一部エリアで増加傾向。

※4 ページ目以降に、各地区について詳細記載。

知床半島エゾシカ管理計画・地区区分図

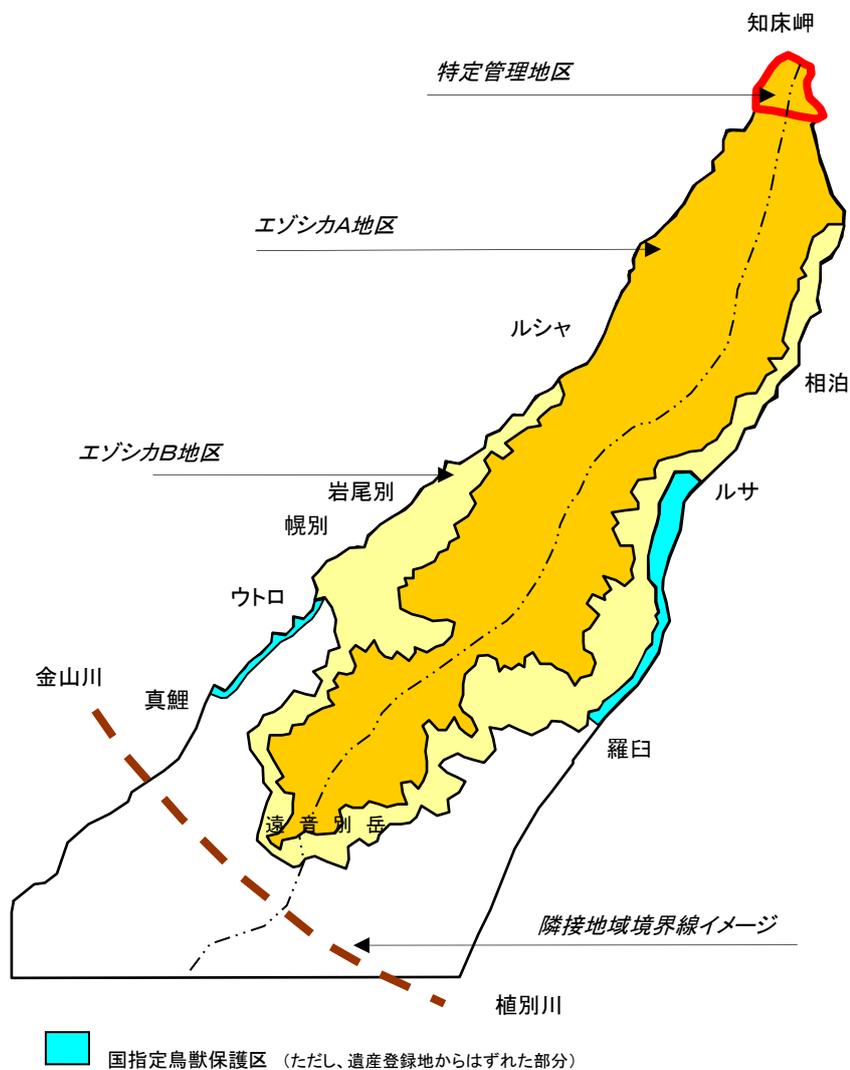


図 3-2-1. 知床半島エゾシカ管理計画対象地域

注：北海道エゾシカ管理計画のユニット 12 の範囲は、斜里町・羅臼町・標津町・清里町・中標津町。

対象地域

- ・エゾシカ A 地区 遺産 A 地区のうち特定管理地区及び幌別－岩尾別台地を除く地域
- ・特定管理地区 知床岬地区のうちポロモイ湾・カプト岩以北
- ・エゾシカ B 地区 遺産 B 地区に幌別－岩尾別台地を含む地域
- ・隣接地域 金山川・植別川付近から半島先端部側の地域

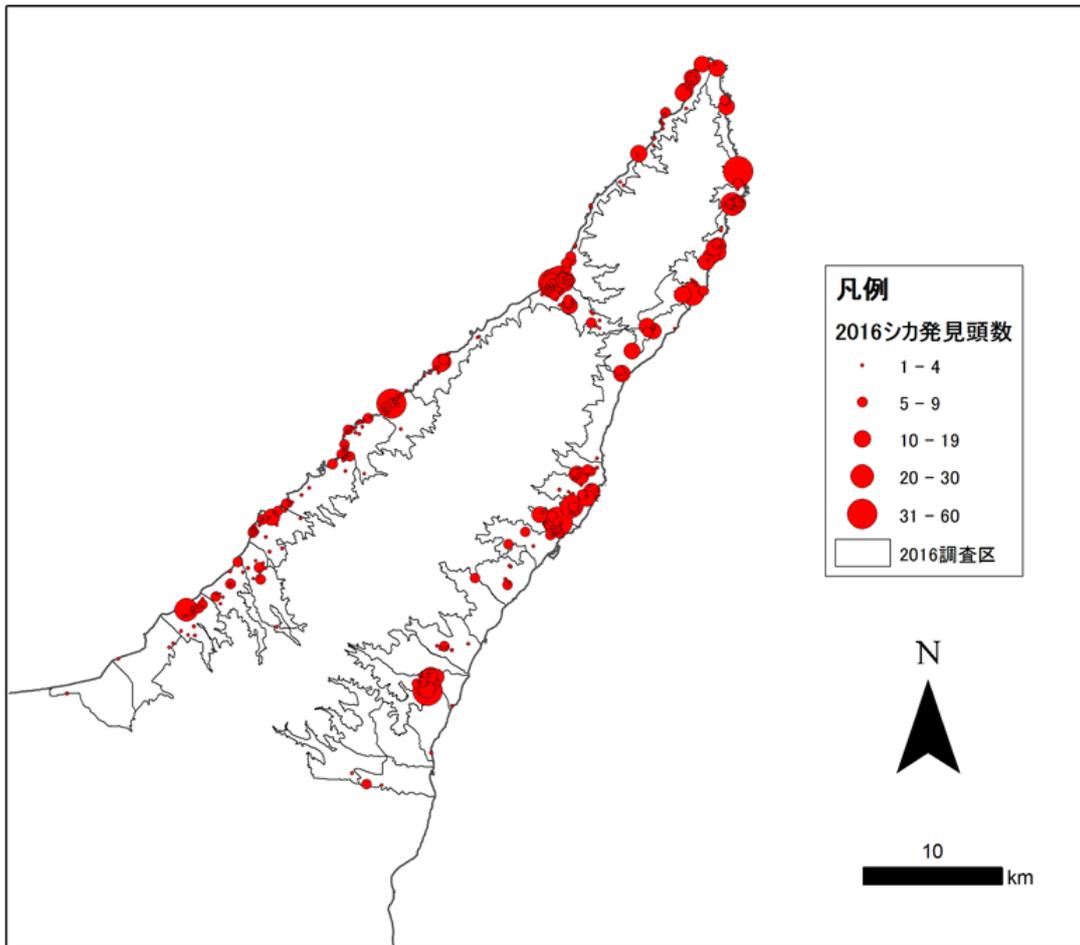


図 3-2-2. 知床半島におけるエゾシカ越冬個体の分布
 (2016年2月の半島全域ヘリコプターカウント実施時)

※ ヘリカウント調査の調査区番号については、資料 1-4 の p.2、図 1-4-1 を参照。
 または本資料の p.14、図 3-2-19 を参照。

○エゾシカ A 地区: 遺産区域の旧核心地域(幌別-岩尾別台地および知床岬を除く)
高山帯への進出は進まず。ルシヤ地区の越冬密度が半島内で最も高い状態。

本地区は主に高標高地域と、(ルシヤ地区を除き)大規模越冬地を含まない低標高地域である。高標高地域では、高山帯への進出が散見されるが、植生への影響拡大は確認されていない。よって第2期計画期間中に高標高地域への進出が加速したとは考えにくい。一方ルシヤ地区については、第1期 2011 年との航空カウント数の比較で第2期の越冬数は一旦減少したが、その後再び増加傾向にあり、2016 年 2 月の越冬密度は半島内で最高。また、主に非越冬期にルシヤ地区において捕獲したエゾシカ(メス成獣 14 頭)の季節移動調査では、今のところ定着傾向が強く、大きな季節移動は確認されていない。

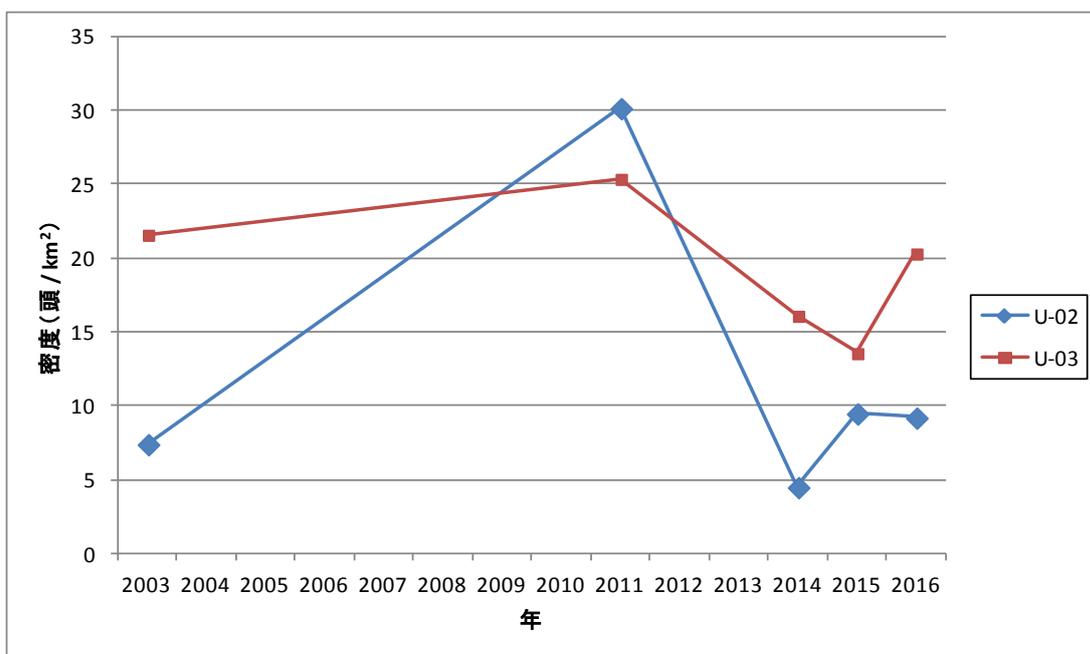


図 3-2-3. ルシヤ地区(広義)の各調査区におけるエゾシカ発見密度(航空カウント結果)の推移。
(U-02:ポトピラベツ~テッパンベツ, U-03:ルシヤ~ポンプタ)

○特定管理地区(知床岬地区)： ポロモイ湾～カブト岩以北の知床岬先端部

第1期に引き続き、5カ年に渡り個体数調整を実施した。先端部台地上での越冬期カウント数は捕獲実施前と比較して2割以下に減少。一方で多雪年には先端部(仕切り柵内)への移入が確認されている。移入元はカブト岩付近等が疑われている。

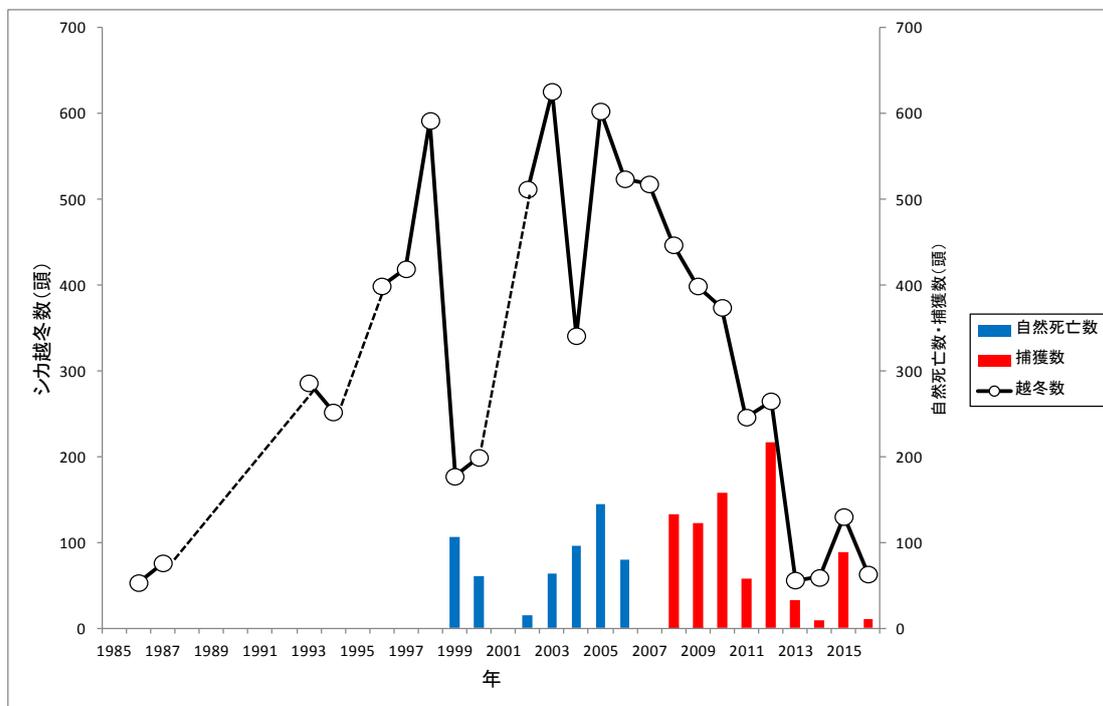


図 3-2-4. 知床岬先端部における航空カウントによる越冬確認数(2-3月実施:折れ線)、春期自然死確認数(5月実施:棒グラフ)および捕獲数の経年変化。2008年以降の越冬数は、調査直前の捕獲を考慮しない未補正の航空カウント数。越冬数白丸年はデータあり、点線部はデータなし。管理捕獲開始後、自然死は大幅に減少。

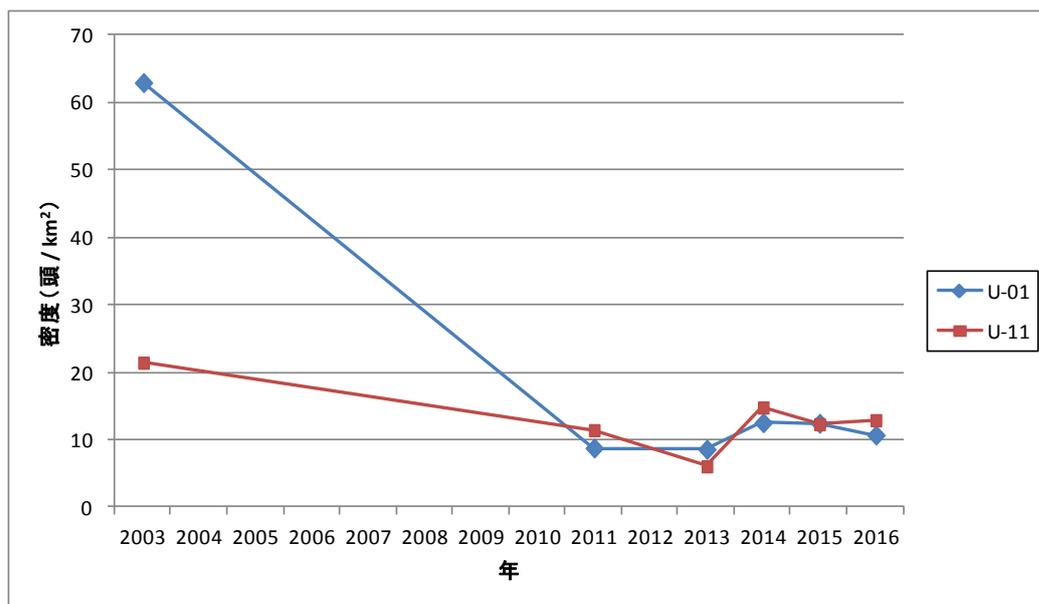


図 3-2-5. 知床岬地区(広義)の各ヘリセンサ調査区(各約 10km²)におけるエゾシカ発見密度の推移。

○エゾシカ B 地区：遺産地域の旧緩衝地域(海域を除く)。

本地区は幌別～岩尾別地区、ルサー相泊地区の2カ所の大規模越冬地を含む低標高地域である。この2カ所の越冬地間には個体の往来がないと見なされることから、以下にそれぞれ別項で取り扱う。

幌別～岩尾別地区：

2012年1月から実施の個体数調整の効果等もあり、2013年以降、航空カウントでは捕獲実施前と比較して大幅に減少。一方で道路カウント(ライトセンサス)では、密度指標値は変動しながら減少傾向にあるものの、特に岩尾別地区で100メス比が上昇に転じている。

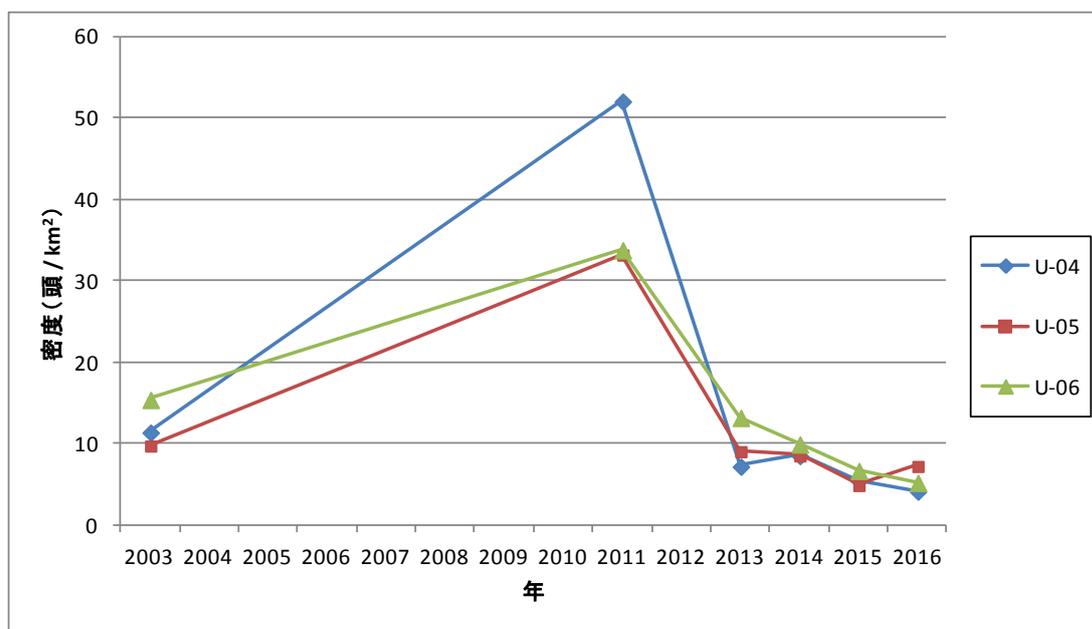


図 3-2-6. 幌別～岩尾別地区(広義)の各調査区(各約10km²)におけるエゾシカ発見密度の推移。

(航空カウント結果)

(U-04:ポンプタ～知床五湖西側, U-05:岩尾別, U-06:幌別。詳細位置および区画については

資料 1-4 の p. 2 を参照)

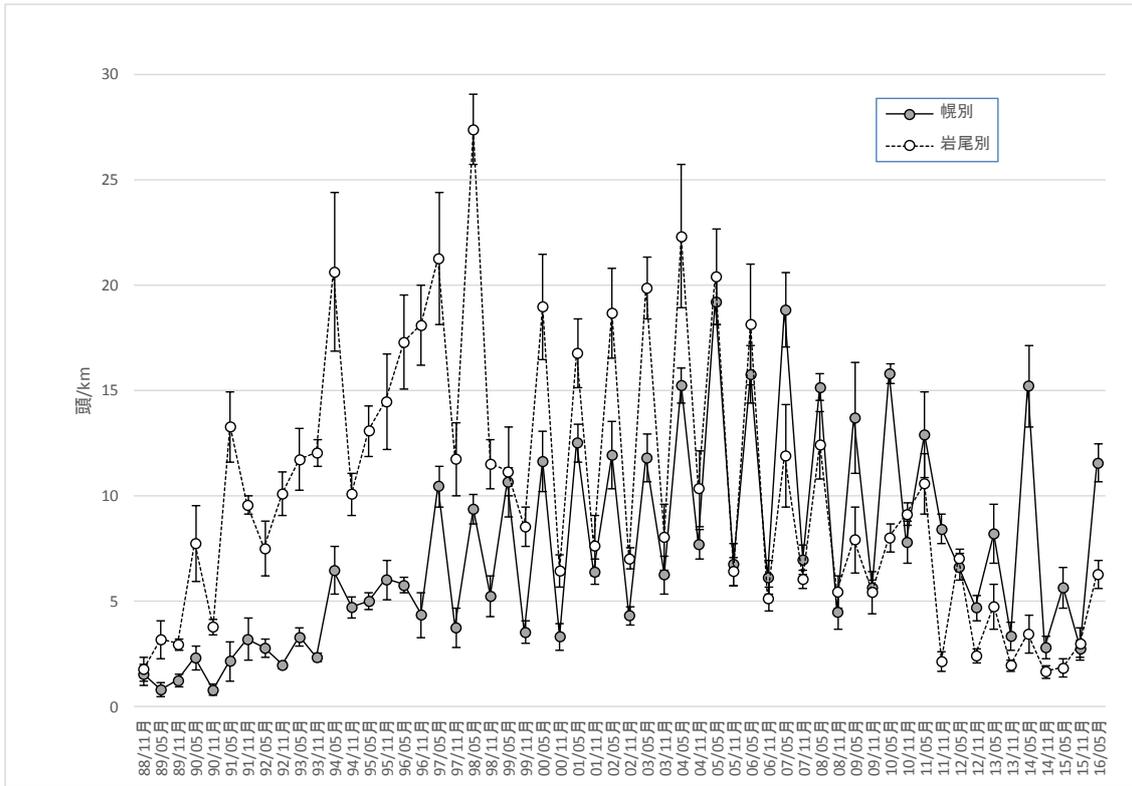


図 3-2-7. 幌別-岩尾別地区の道路沿いにおける日没後のスポットライトカウントで発見されたエゾシカの距離当たり頭数(密度指標値)の経年変化。5 夜の平均値と標準誤差を表す。

※2014 年春期の幌別コースは多雪の影響で融雪の早い道路法面にシカが例年以上に集中したため、例年より突出して多数のシカがカウントされた可能性あり。

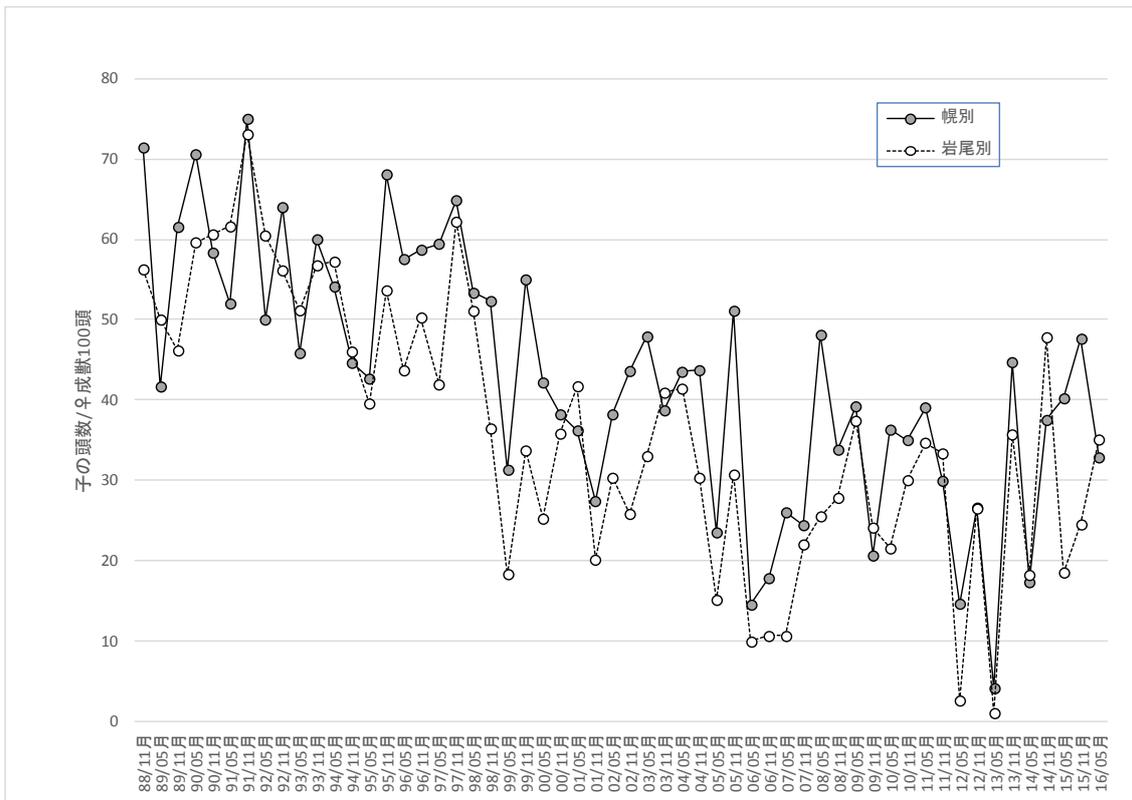


図 3-2-8. 幌別—岩尾別地区の道路沿いにおけるスポットライトカウントで発見されたエゾシカメス成獣 100 頭に対する 0 歳個体数(100 メス比)の経年変化。

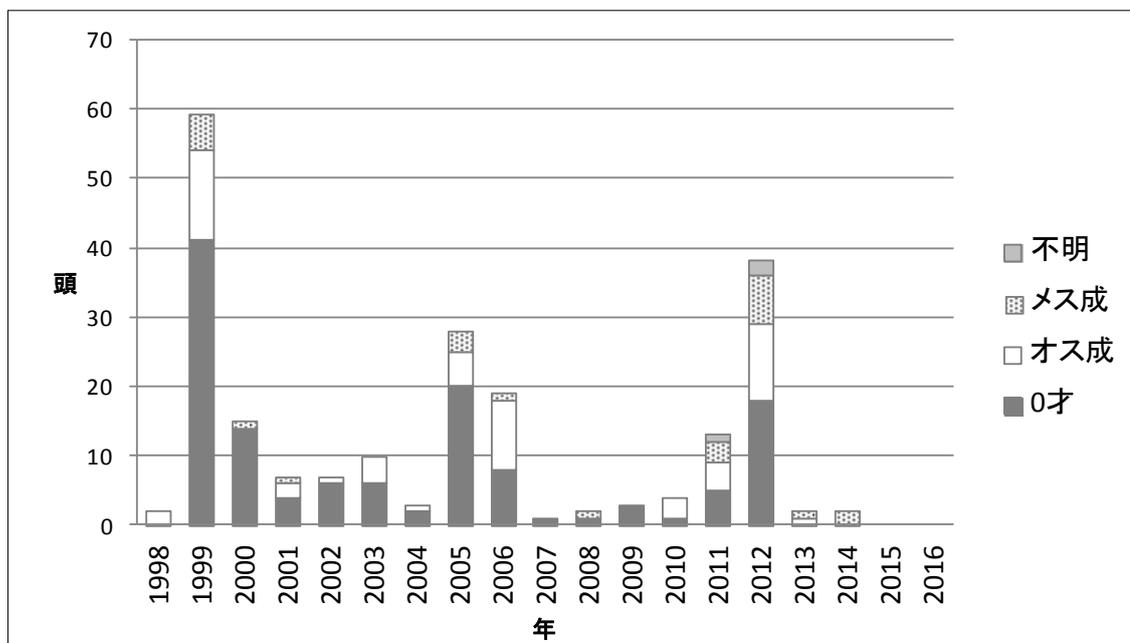


図 3-2-9. 幌別—岩尾別地区で 1～5 月に確認した自然死亡シカ死体数の経年変化。
2012 年春(H23 シカ年度)に大量死が発生している。

ルサー相泊地区:

2010年12月から実施の個体数調整の効果等もあり、2013～2015年、航空カウントでは捕獲実施前と比較して、同地区南部(U-13)で大幅に減少。しかし2016年には再び増加。道路カウント(ライトセンサス)では、幌別～岩尾別地区と同様に100メス比が若干上昇傾向。

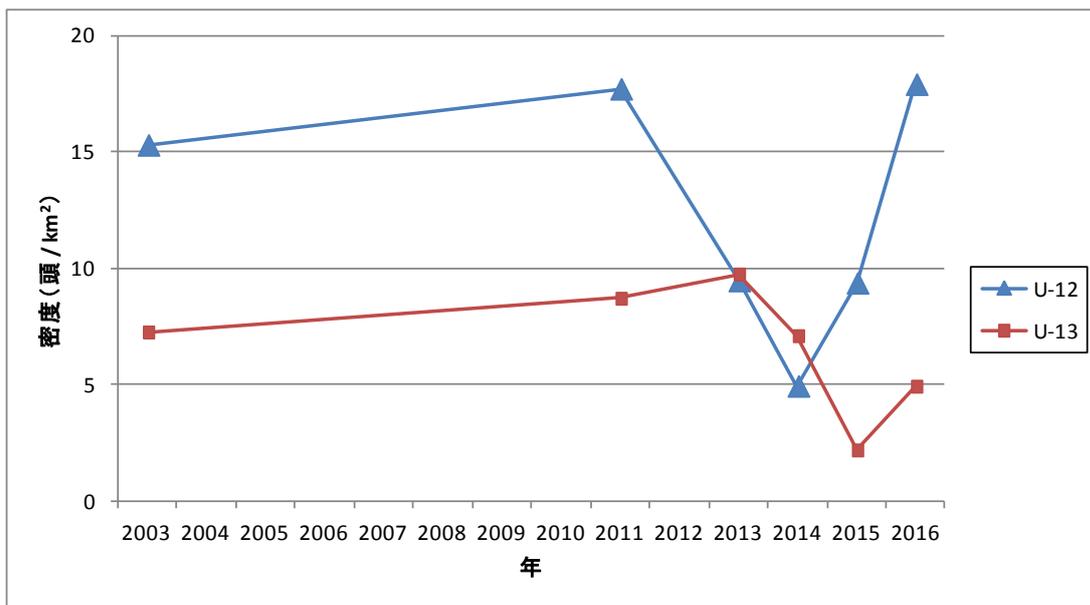


図 3-2-10. ルサー・相泊地区(広義)の各調査区(各約 10km²)におけるエゾシカ発見密度(航空カウント結果)の推移.

(U-12:モイレウシ～相泊温泉, U-13:セセキ温泉～ルサー・キキリベツ)

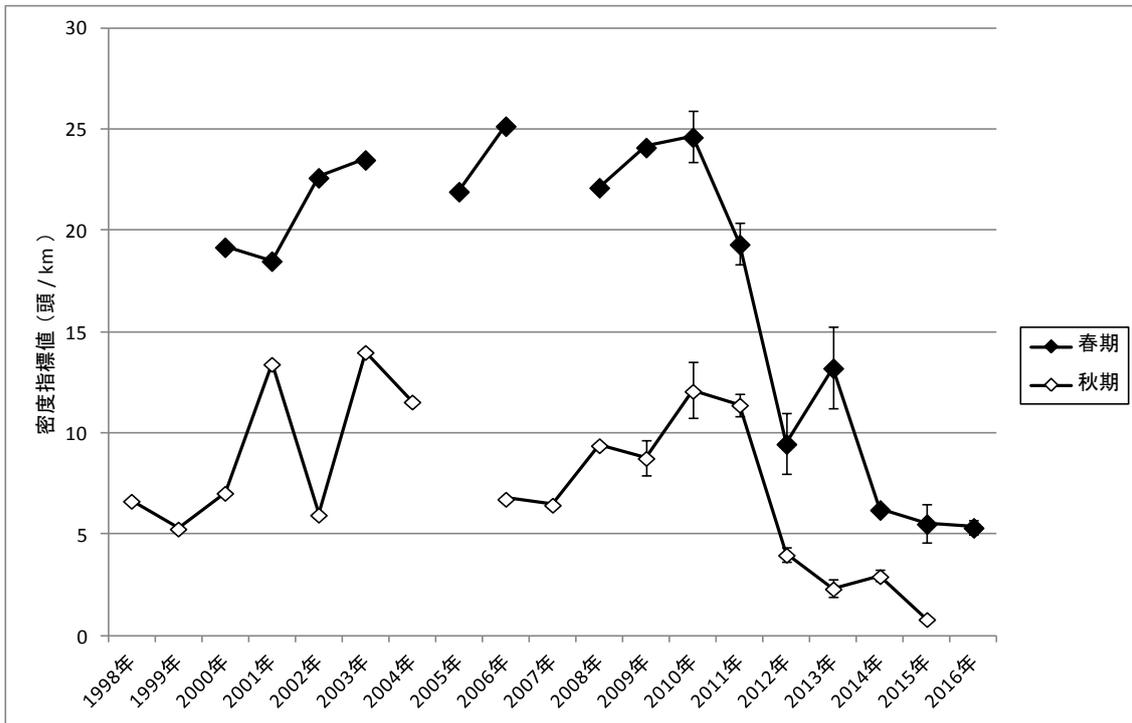


図 3-2-11. ルサー相泊地区の道路沿いにおけるスポットライトカウントで発見されたエゾシカの距離当たり頭数 (密度指標値)の経年変化。5 夜の平均値と標準誤差を表す

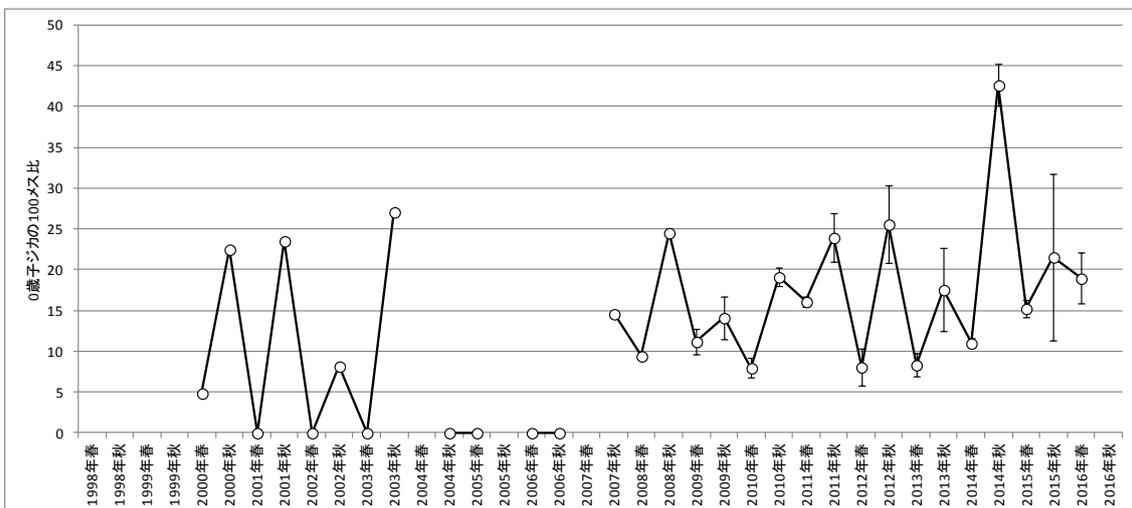


図 3-2-12. ルサー相泊地区の道路沿いにおけるスポットライトカウントで発見されたエゾシカメス成獣 100 頭に対する 0 歳個体数(100 メス比)の経年変化

○隣接地域：遺産地域範囲外で、斜里側は金山川、羅臼側は植別川付近までを想定。
 本地域は斜里側、羅臼側に分かれる低標高地域である。以下にそれぞれ別項で取り扱う。

斜里側：

中断期間を設けた狩猟の継続等で道路カウント(日中カウント)では鳥獣保護区外で減少傾向。保護区内においては増加傾向にあったが、2013年12月以降実施の林野庁事業による管理捕獲等の効果か、2013年度以降は減少傾向に転じた。

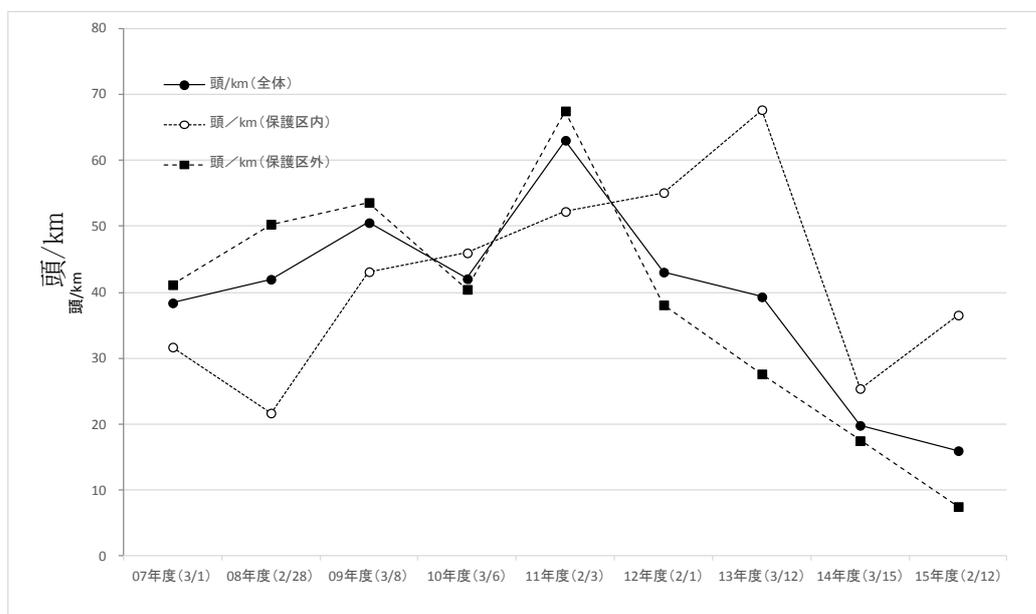


図 3-2-13. 真鯉地区の道路沿いに見られたエゾシカの距離当たり頭数の変化。鳥獣保護区内(オショコマナイ川～オペケブ川)：3.5km 鳥獣保護区外(オペケブ川～オチカバケ川)：8.5km

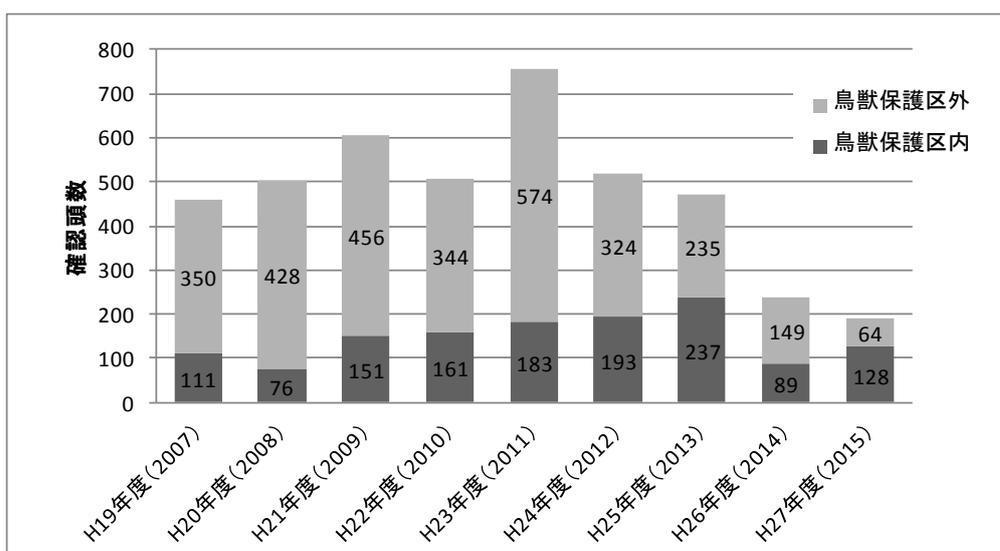


図 3-2-14. 真鯉地区の道路沿い日中カウントにおけるエゾシカのシカ年度別最大確認頭数の経年変化。

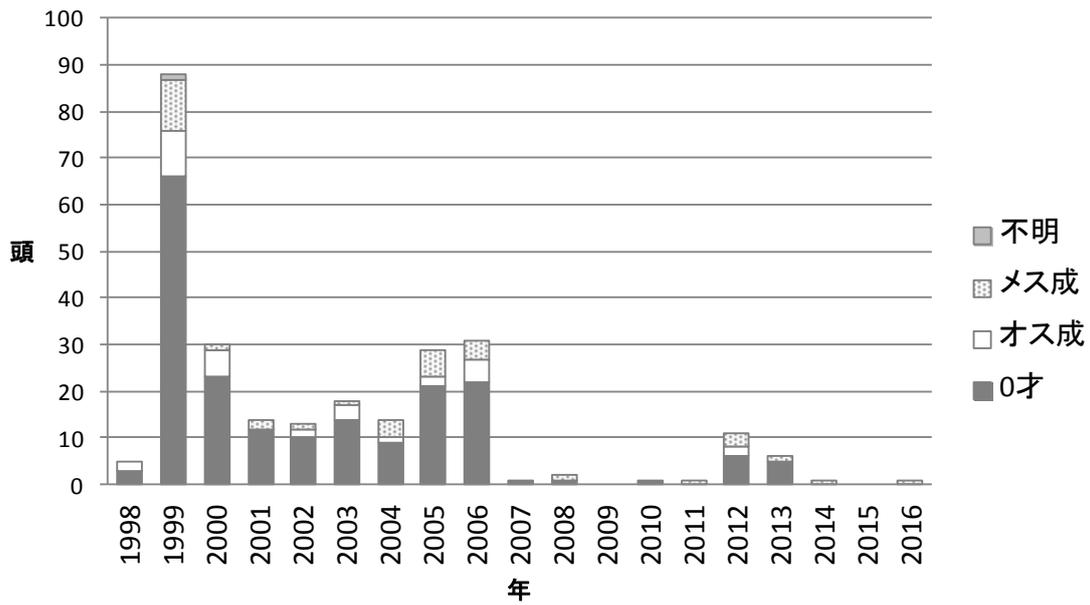


図 3-2-15. 斜里側の隣接地域で1～5月に確認した自然死亡シカ死体数の経年変化。

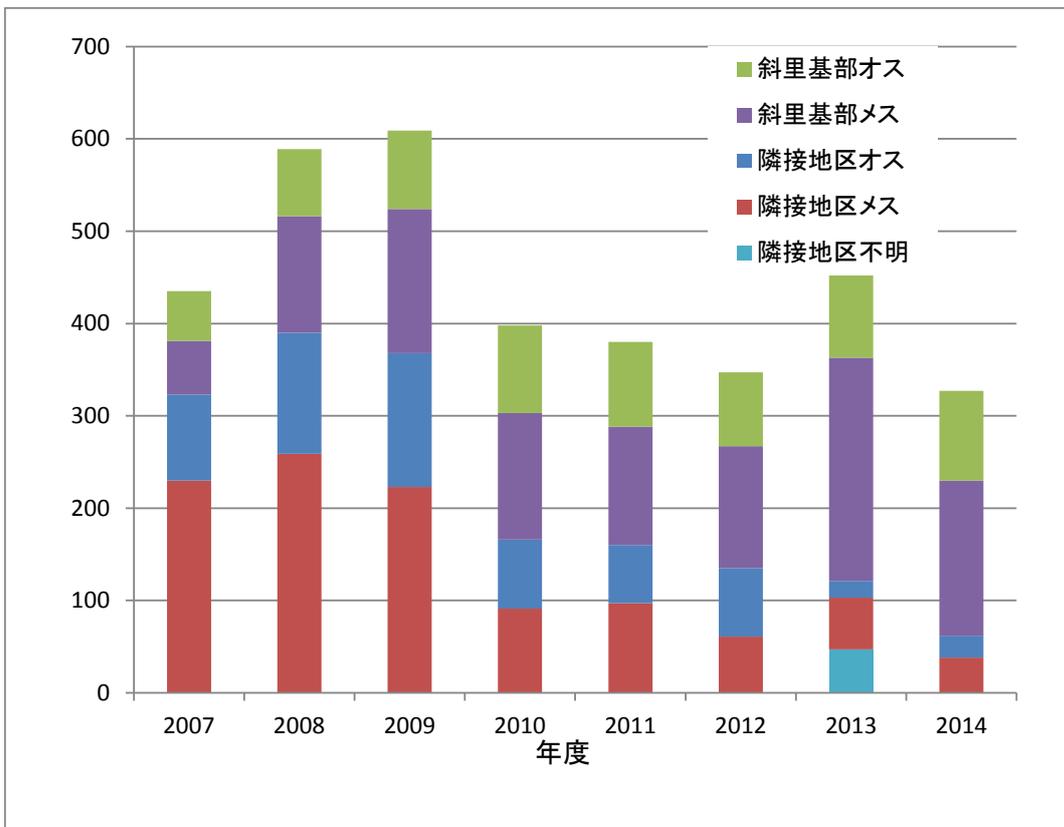


図 3-2-16. 斜里町の隣接地域内外で管理捕獲されたエゾシカの経年変化。

羅臼側:

狩猟と管理捕獲により、一定の捕獲圧は維持されている。全体的に横ばいまたは減少傾向だが、一部エリア(U-15、オッカバケ川～羅臼灯台)で増加傾向(図 3-2-20)。

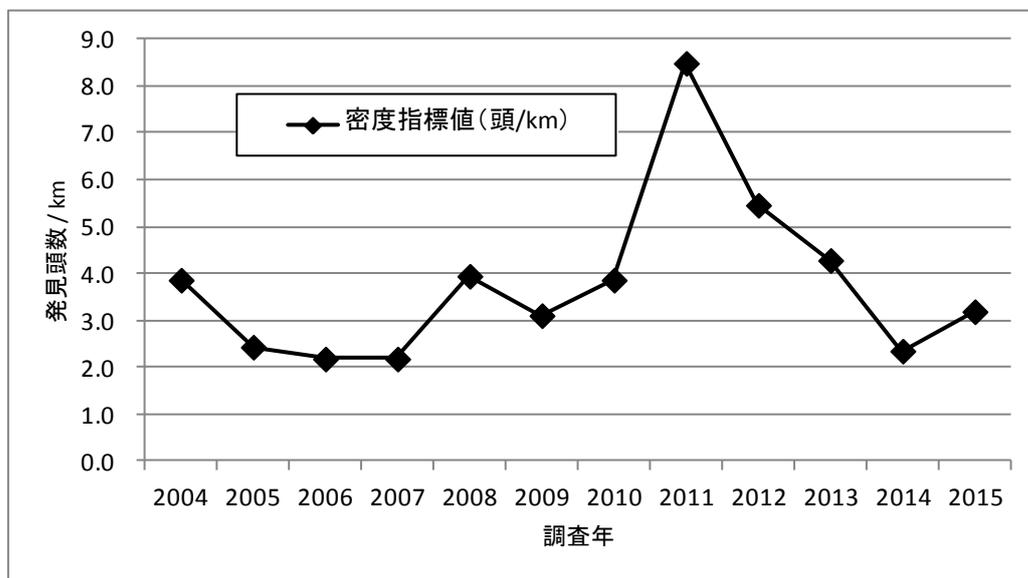


図 3-2-17. 羅臼側隣接地域(峯浜町)の道路沿いで実施されたスポットライトカウントにおけるエゾシカの距離あたり発見頭数の経年変化(北海道:調査は1夜のみ、牧草地コース).

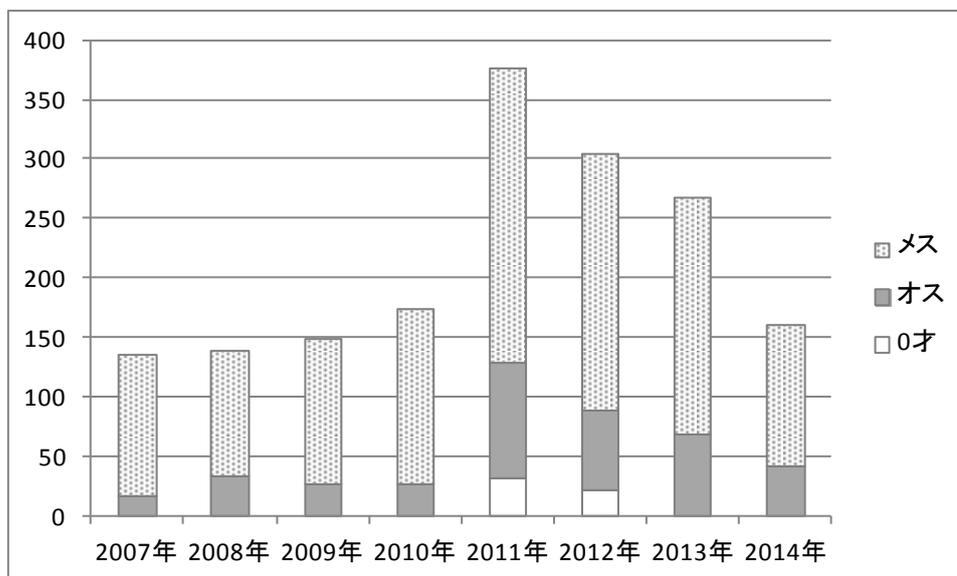


図 3-2-18. 羅臼町内の隣接地域におけるエゾシカの管理捕獲(羅臼町・北海道森林管理局)による捕獲数の経年変化(年度別). 北海道森林管理局による捕獲(囲いワナ)は 2010～2012 年度に実施.

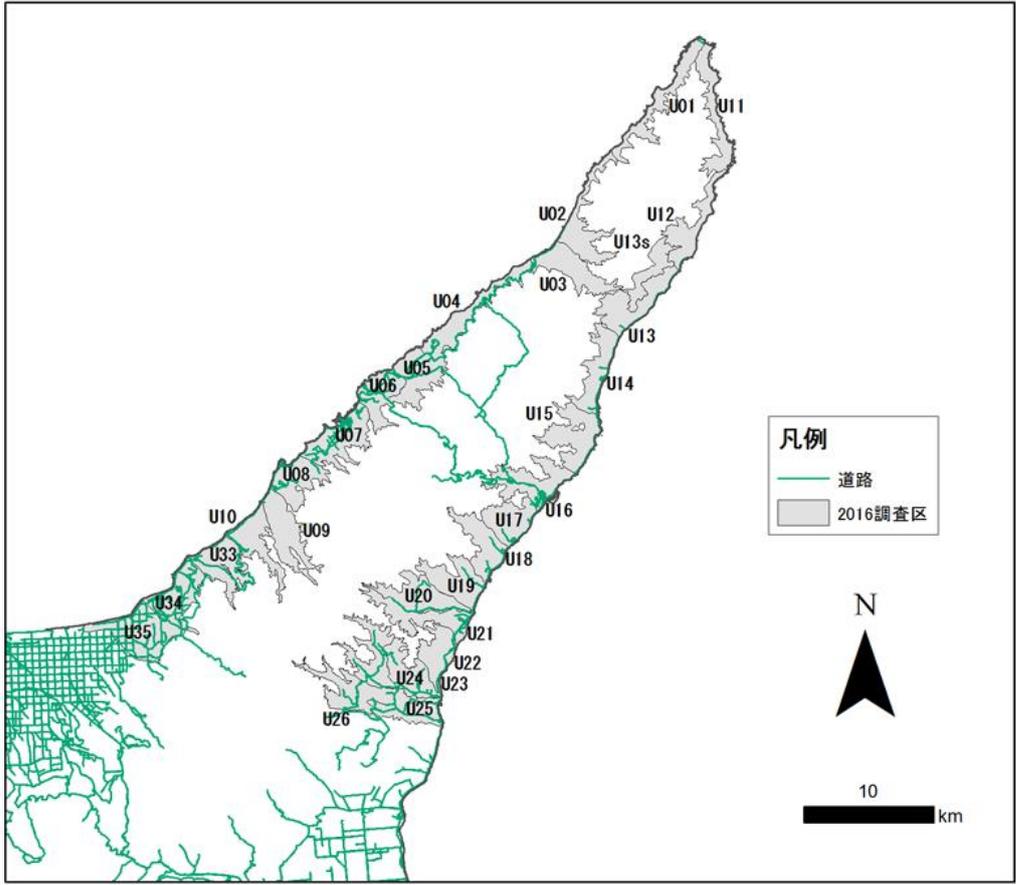


図 3-2-19. 知床半島におけるエゾシカヘリカウント調査の調査区(2016年2月調査時).

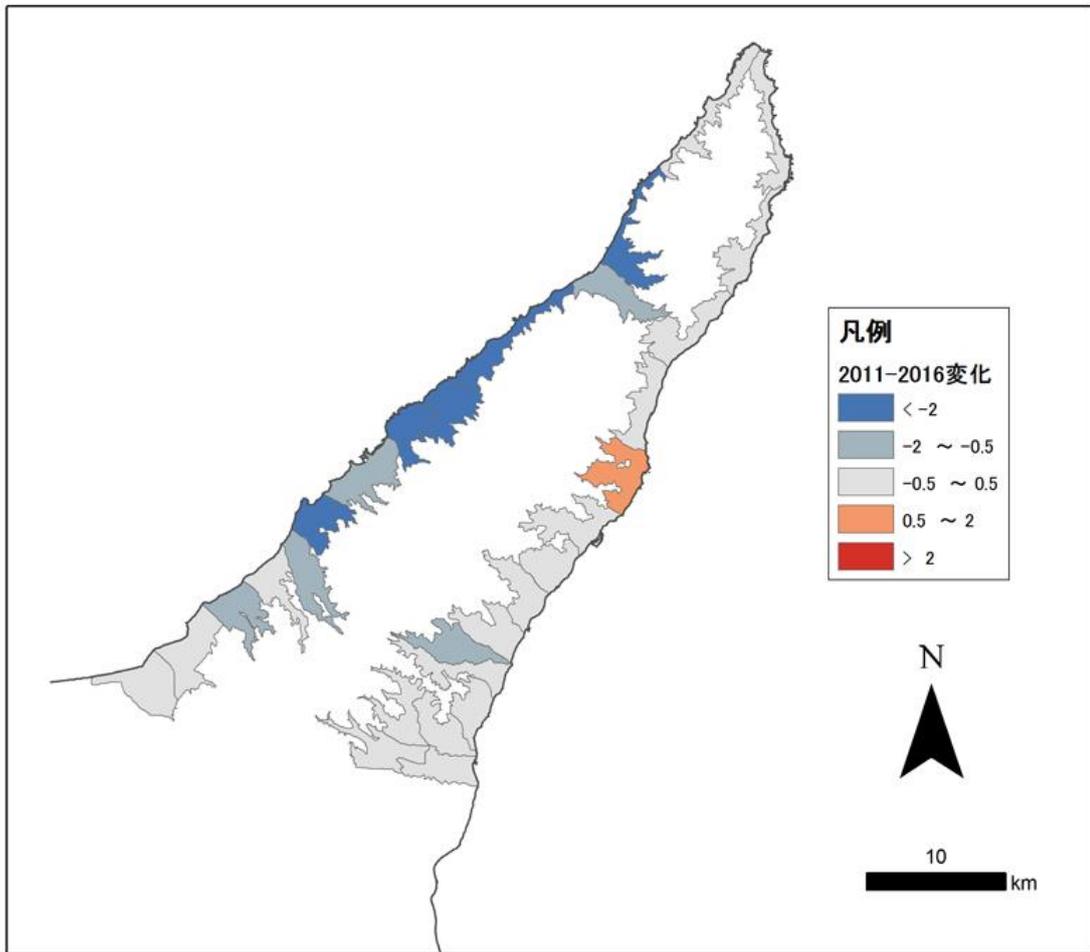


図 3-2-20. 知床半島エゾシカヘリカウト調査結果の経年比較（各調査区の増減比較）.

(2016年発見数-2011年発見数)/(t検定標準偏差)で2011年から2016年間の変動を表し、青が減少傾向、赤が増加傾向、灰色がほぼ変化なしを示している

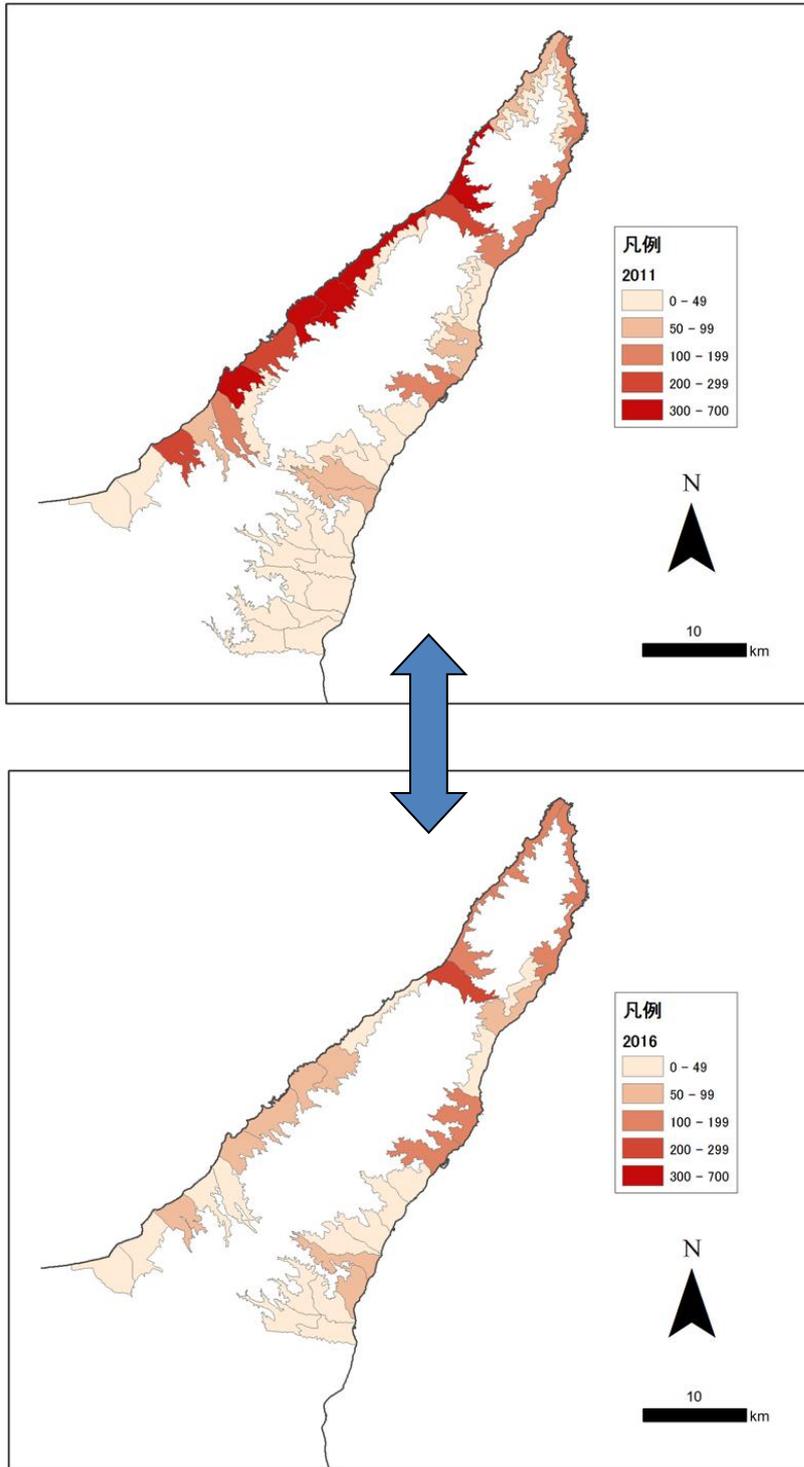


図 3-2-21. 知床半島エゾシカヘリカウムの調査結果の比較(2期開始前の2011年 vs 3期開始前の2016年).
各調査区におけるシカ発見数の変化(上:2011年2月、下:2016年2月)